

芦川 晋 ゼミ

教員の研究関心領域

私の研究領域は、理論社会学・社会思想で、とりわけコミュニケーション論や自我論を中心に研究を進めています。ただ、研究という条件をはずせば、政治経済的な問題、イマドキノ若者にかかわる問題、サブカルチャーがらみの話など、世の中で起こっているいろんなことに興味があります。ゼミも、できるなら私の研究領域にあわせたものにしたところですが、ゼミ生の希望も参考にするので、実際には、そうなる年もあれば、私の研究とはあまり関係のないものを取り上げる年もあります。

4年までのテーマ・方針・内容

どんなことであれ世の中で起こっていることを理解するには、さまざまな知識が必要になってきますし、それは自分の興味や関心を育て深めていくことにもつながります。このゼミでは、どんな領域であれ自分がこだわる世界の言葉や知識を蓄積していきたい人を歓迎します。ゼミとは、その手助けをしてくれる場所だと考えてください。そして、自分がいままで気づかなかった事柄に、目を向けられるようになるのはなかなか楽しいものです。また、そのためには身につけておきたいリテラシーというものがあります。ゼミの活動のなかで本を読んで議論したり、文章を書いたりする技術を磨いてもらいます。なお、なるべく共通の関心を持った学生が集まってもらったほうがゼミを運営しやすいので、私の研究関心領域をその手がかりとして考えてください。

卒業論文のタイトル例

「平等の幻想—新しい階層社会—」
「なんでこんなに『癒し』が求められるのか？」
「自己決定はホントによいことか？—死の自己決定権をめぐる—」
「若者におけるケータイ電話の利用実態」
「NHKの朝ドラにみる女性像の表象分析」
「オウム事件が示す現代青少年」
「子どもにとってよい親との関係」
「『完全自殺マニュアル』がもたらしたもの」

成績評価 基準・方法

テキストの輪読や各人の発表をもとに議論を進めていくゼミにしたいので、出席、報告、発言等ゼミへの参加の度合い、レポートから評価を行う。また、必要に応じて課題を課すことがある。
※ゼミ履修にあたっては、ゼミというもののイメージをつかむために、遙洋子『東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ』（ちくま文庫）をおすすめしておきます。

自己紹介 こんな学生を歓迎

私は根っからの理論屋で、おそらく学部でいちばん理屈っぽい教員で、ゼミにもそれが反映されます。ただ、学生時代の経験から、ゼミというのは教員になるべくしゃべらせず、学生が勝手に議論するものだと固く信じているので、それを実践して欲しい。議論好きな人、本を読むのが好きな人、月千円以上（値引き済）を本の購入にあてている人、群れるのに疲れた女子、一匹狼、おたく、腐女子、浪人している人。他の科目は苦手でもこの科目だけは得意という科目がある人、ボケとつっこみをやってくれる人、ゼミを自分色に染めてやろうと思っている人、歓迎。なお、仲間でご群れたがる人はご遠慮下さい。

演習Ⅰ テーマ： 読んで書く

内容 スケジュール

春学期は、ゼミに必要なリテラシーを身につけてもらう準備作業をふまえたうえで、何らかのテーマにそったテキストを2~3冊以上を読み進め、それについて議論を行う。
秋学期は、個人もしくはグループ単位の自由報告とし、自分たちが選んだテーマで、資料探し、文献読解、報告して、同様に議論する。その成果はレポートで提出。

その他

テキストは、候補をいくつかあげて、ゼミ生の意見も参考にしながら、学期はじめに決めるので、参考にするために志望時に自分の関心領域を紹介してください。基本的に、テキストは社会学の専門書やそれに類するもう少し初歩的な新書・文庫の類になります。

演習Ⅱ テーマ： よんで

内容 スケジュール

春学期は前年度に相談のうえ決めておいたテーマに関する文献を何冊か読み進め議論を行う。秋学期は個人の自由報告とし、それぞれがテーマを決めたうえで、資料探し、文献読解、報告してもらい、同様に議論する。その成果はレポートにまとめて提出してもらう。

その他

演習Ⅱで取り上げる内容については、前年度末に学生の意見も参考にしながら決める。

演習Ⅲ テーマ： 卒論あるいはレポートの作成

内容 スケジュール

3年次までに蓄積してきた知識やリテラシーを活かして、すぐれた卒論あるいは卒論より軽めのレポートを書いてほしい。準備作業としては、(1)参考文献一覧の作成、(2)最重要文献のレビュー、(3)テーマの設定、(4)目次作り等。なお、大学院と合同で社会学専門文献購読を行う場合もある。

その他

ゼミ受講希望者は、ゼミ初日に自分が卒論あるいはレポートとしてどんなことをやりたいのか、A4一枚程度の文章を書いてくること。《参考文献》 山内志朗「ぎりぎり合格への論文マニュアル」（平凡社新書）